

授業科目	高次脳機能障害Ⅱ（評価）				
担当者	森岡悦子・中谷謙・圓越広嗣・酒井希代江				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

本講義では、高次脳機能障害の症状に関する知識を基に、高次脳機能障害の各検査の目的と実施方法、結果の解釈法を理解し、障害像の捉え方を学ぶ。また症状分析に必要な情報と合わせて考察し、高次脳機能障害の症状のまとめ方を修得する。

■ 到達目標

1. 高次脳機能検査の目的と実施方法を学び、正しく実施することができる。
2. 症状に応じて、必要な掘り下げ検査を選択し、実施することができる。
3. 検査結果を正しく解釈し、病変と症状を対応させて、障害像を捉えることができる。
4. 検査結果から高次脳機能障害の症状をまとめることができる。

■ 授業計画

- 第1回 認知機能 (1)：認知機能、認知機能全般のスクリーニングの意義の理解（森岡）
- 第2回 認知機能 (2)：言語性の認知機能のスクリーニング、MMSE-J、HDS-Rの目的、実施方法、結果解釈の理解（森岡）
- 第3回 認知機能 (3)：視覚性の認知機能のスクリーニング、RCPMの目的、実施方法、結果解釈の理解（森岡）
- 第4回 注意障害 (1)：注意の特性と、注意機能障害の臨床像（森岡）
- 第5回 注意障害 (2)：標準注意検査法（CAT-R）・標準意欲評価法（CAS）の目的と手順の理解（森岡）
- 第6回 注意障害 (3)：標準注意検査法（CAT-R）・標準意欲評価法（CAS）の演習、結果の解釈、症状のまとめ（森岡）
- 第7回 記憶障害 (1)：記憶障害の症状、病巣との関係（圓越）
- 第8回 記憶障害 (2)：リバーミード行動記憶検査（RBMT）の目的と手順の理解（圓越）
- 第9回 記憶障害 (3)：リバーミード行動記憶検査（RBMT）の演習、結果の解釈、症状のまとめ（圓越）
- 第10回 失行と失認 (1)：失行と失認の障害機序と症状（酒井）
- 第11回 失行と失認 (2)：失行の臨床像と、標準高次動作性検査（SPTA）の目的と手順の理解、結果の解釈、症状のまとめ（酒井）
- 第12回 失行と失認 (3)：失認の臨床像と、標準高次視知覚検査（VPTA）の目的と手順の理解、結果の解釈、症状のまとめ（酒井）
- 第13回 視空間障害 (1)：半側空間無視、構成障害、バリント症候群（中谷）
- 第14回 視空間障害 (2)：BIT 行動性無視検査の目的と実施手順の理解（中谷）
- 第15回 視空間障害 (3)：BIT 行動性無視検査の演習、結果の解釈、症状のまとめ（中谷）

■ 評価方法

筆記試験 100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

初回授業までに、1年生で学んだ「高次脳機能障害Ⅰ」の内容をよく復習しておいてください。授業中に示された重要箇所をよく確認し復習してください。各検査については、検査手技を高めるため、空き時間を利用して自主的に練習を行ってください。

■ 教科書

書名：高次脳機能障害学 第3版

著者名：石合純夫

出版社：医歯薬出版株式会社

■ 参考図書

書名：高次脳機能障害（言語聴覚士 ドリルプラス）

著者名：金井孝典 大塚 裕一

出版社：診断と治療社

■ 留意事項

授業中に分からないことがあれば、必ず質問をするようにしてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。